

2016年度 自己点検・評価【神学部】

C票

<目標、行動計画>進捗確認シート

提出日:2017年 2月 23日

2021年度に向けた教育研究目標

責任者	神学部長	作成部局	神学部
-----	------	------	-----

【A票:教育研究目標1】

(タイトル)
国際社会に必要な基礎学力の錬成

(狙い内容)
キリスト教を中心として、宗教的教養を養い、国際社会と対話する能力を修得する。

1. 教育研究目標を実現する上での2021年度のめざす姿(目標)

専門基礎科目群(必修科目)ならびに、宗教学関連科目を充実させ、キリスト教を切り口とした宗教リテラシー教育の充実を図る。
また、変化を続ける国際社会へ対応するため海外文化を体験する機会提供の充実を図る。

<変更時記入欄>

<変更理由記入欄:2021年度のめざす姿(目標)を変更した場合、その理由を記入>

2. 達成度評価

評価指標	下記の行動計画における取り組み状況	評価尺度	A: 行動計画の取組みの実施と評価・検証が行われている B: 現状の分析とシラバスの整備が完了している C: 行動計画実行に向けた方針の確定 D: 行動計画の立案	変更有無
	<変更時記入欄>		<変更時記入欄> A: 行動計画の取組みの実施と評価・検証が行われている B: 現状の分析とシラバスの整備が完了している C: 行動計画実行に向けた方針の確定 D: 行動計画の検討・立案	(有)無

3. 年度毎の目標値

		2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	変更有無
2015年度 (計画策定時)		宗教学関連科目の担当者の検討	D ■行動計画の立案 ・CMの課題精査・再整備 ・留学における単位認定方針の明示	C ■行動計画実行に向けた方針の確定 ・CMをもとにしたシラバス内容の検証	A 行動計画の取組みの実施と評価	A 行動計画の取組みの実施と評価	A 行動計画の取組みの実施と評価	A 行動計画の取組みの実施と評価	(有)無
2016年度 進捗状況 & 今後の 目標値	評価 尺度: A~D	<実績> D	見込み	<2016年度末時点の見込み又は実績又は目標> D	B				(有)無
	見込・実績・目標 (値又は状況)	<実績> 担当者を検討した。		<2016年度末時点の見込み又は実績又は目標> CMを整備。留学における単位認定について内規改正を予定。	2018年度時点の現状を分析し、関連する科目のシラバス整備が完了している。				

【2016年度の進捗状況について】 ←

3方針の及び、CMについても検証を行い評価尺度を修正。その他カリキュラム改編に伴い、留学参加における単位認定について内規を改正。次年度以降、グローバル化促進を目指し宗教リテラシーの教育を重点的に、対象となる科目の検討、シラバス整理を計画している。

<変更理由記入欄:評価指標、評価尺度、年度毎の目標値が変更有の場合>

評価尺度および、目標値の明確化を目指した為。

2016年度の取組み状況の確認

2016年度の取組みは、当初の目標どおりに進んでいるか? → (はい)・いいえ

<上記で「いいえ」を選んだ場合>

①理由:

②今後必要な取組み:

<評価専門委員会・第三者評価結果> 2017年1月27日公示

- ・ 着実な進捗が認められ、特段の問題はないように思います。評価尺度などを見直し、明確な尺度を設定しているように思います。(A)
- ・ 教育研究目標1の評価指標については、具体的な成果を表すような指標の設定が期待されます。(B)
- ・ 適切な自己評価がなされていると思います。特に国際化に対する方向性は明らかで評価できる点であると言えます。(C)
- ・ カリキュラムマップの課題精査や再整備が進んでおり評価できます。(F)
- ・ 国際社会への対応として、着実に改革に取り組んでおられる様子がわかります。(J)

【A票:教育研究目標2】

(タイトル)
 少人数による教育

(狙い内容)
 少人数の授業によって、学問研究の基礎を学び、みずから社会の課題や問題を発見することのできる積極的な学習環境を構築する。

1. 教育研究目標を実現する上での2021年度のめざす姿(目標)
 更なる少人数による細やかな教育・研究指導を受ける機会を増やすことで、授業内容の理解力向上を目指し、学部内の教育を充実させることを目標とする。

<変更時記入欄>

<変更理由記入欄:2021年度のめざす姿(目標)を変更した場合、その理由を記入>

2. 達成度評価		変更有無
評価指標	少人数教育の強化科目を選定する。シラバスに『少人数実施』と明示し、学生へ意図を伝達したうえで検証を行う。	評価尺度 A: 少人数教育の実施・検証が行われている B: 少人数教育を行う教科科目の開講 C: 少人数教育を行う教科科目の選定 D: 現状と変更なし <変更時記入欄> A: 少人数科目の見直しと充実への取組み B: 少人数教育の実施・検証が行われている C: 少人数教育を行う教科科目のシラバスの改訂 D: 少人数教育を行う教科科目の選定
	<変更時記入欄> 少人数教育の強化科目に選定された科目のシラバスに『少人数実施』と明示し、学生へ意図を伝達し、その効果の検証を行う。	

3. 年度毎の目標値								変更有無
	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	有・無
2015年度 (計画策定時)	D ・2年次に「基礎演習」2クラス開講 ・4年次に「特殊研究演習」	C 2年次の「文献講読」4クラス開講。 1・2年次のすべての英語クラスを2クラス開講する。	3年次からの「研究演習A・B」を開講する。	4年次からの「研究演習C・D」を開講する。	少人数教育の見直し	少人数教育の見直し	少人数教育の見直しと具体的な改善計画の策定	
2016年度 進捗状況 & 今後の目標値	評価尺度: A~D D <実績>	実績 C <2016年度末時点の見込み又は実績又は目標>	C	B	A	A	A	
	見込・実績・目標(値又は状況)	<実績> 次年度開講準備にあたり、クラス編成について検討を行った。	<2016年度末時点の見込み又は実績又は目標> クラス改編を行い、シラバス改訂を行った。					

【2016年度の進捗状況について】 ←

2015年度に行った科目の選定をもとに学年進行とともに開講。同時にシラバスへ『少人数で実施』する文言などを追記した。少人数教育の環境を整え、次年度以降、その効果を検証する。

<変更理由記入欄:評価指標、評価尺度、年度毎の目標値が変更有の場合>
 評価尺度および、目標値の明確化を目指した為。

2016年度の取組み状況の確認

2016年度の取組みは、当初の目標どおりに進んでいるか? → (はい)・いいえ

<上記で「いいえ」を選んだ場合>
 ①理由:
 ②今後必要な取組み:

<評価専門委員会・第三者評価結果> 2017年1月27日公示

- ・着実な進捗が認められ、特段の問題はないように思います。評価尺度などを見直し、明確な尺度を設定しているように思います。(A)
- ・教育研究目標2の評価指標の変更は適切です。ただ、効果の検証を評価指標とするのであれば、効果の程度を評価尺度することが期待されます。(B)
- ・目標達成に向けて適切なスケジュール設定がなされていると思います。(C)
- ・全英語科目においてクラスの少人数化をはかった点は評価できます。次年度以降の再履修者が目標値に届くことが期待されます。(F)
- ・「少人数教育の環境を整え、次年度以降、その効果を検証する。」とありますが、来年度以降の取組みでは、検証結果が分かりやすく示されることを期待しています。(J)

【A票:教育研究目標3】

(タイトル)
 “Mastery for Service”を実践する社会人の育成

(狙い内容)
 キリスト教ならびに宗教に関する総体的な基礎知識に裏打ちされ、しかも、現代の社会と人間に対する洞察力を持ち、明確な人権意識を持って、“Mastery for Service”を実践することのできる人材を育成する。

1. 教育研究目標を実現する上での2021年度のめざす姿(目標)

2015年度から開始されたディアコニア・プログラムやこのプログラムに関連したハンズオン・プログラムを充実させ、社会との関わりへの関心を高め、ディアコニア・プログラム修了者から社会福祉事業従事者・NPO活動従事者を輩出することを目標とする。

<変更時記入欄>

<変更理由記入欄:2021年度のめざす姿(目標)を変更した場合、その理由を記入>

2. 達成度評価

評価指標	ディアコニア・プログラムの新規登録者数	評価尺度	A: 5名以上 B: 4名 C: 3名 D: 2名以下	変更有無
	<変更時記入欄>		<変更時記入欄> A: B: C: D:	

3. 年度毎の目標値

		2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	変更有無
2015年度 (計画策定時)		ディアコニア・プログラムの開始	ディアコニア・プログラムの新規登録者数:3名	ディアコニア・プログラム修了者輩出	・ディアコニア・プログラムの振り返りと充実をはかる。 ディアコニア・プログラムの新規登録	ディアコニア・プログラムの新規登録者数:5名以上	ディアコニア・プログラムの新規登録者数:5名以上	A ディアコニア・プログラムの新規登録者数:5名以上	有・無
2016年度 進捗状況 & 今後の 目標値	評価 尺度: A~D	<実績> D	実績	<2016年度末時点の見込み又は実績又は目標> A	A	A	A	A	
	見込・実績・目標 (値又は 状況)	<実績> 履修説明会などを実施し、募集を行った。		<2016年度末時点の見込み又は実績又は目標> 5名の申込み、履修許可を行った。	Aを目指す	Aを目指す	Aを目指す	Aを目指す	

【2016年度の進捗状況について】

2016年度より登録開始。5名が新規登録された。次年度以降も履修説明会などを実施し、5名以上の登録者を目指す。

<変更理由記入欄:評価指標、評価尺度、年度毎の目標値が変更有の場合>

評価尺度および、目標値の明確化を目指した為。

2016年度の取組み状況の確認

2016年度の取組みは、当初の目標どおりに進んでいるか? → **はい**・いいえ

<上記で「いいえ」を選んだ場合>

①理由:

②今後必要な取組み:

<評価専門委員会・第三者評価結果> 2017年1月27日公示

- ・ディアコニア・プログラムは、よく知られていない(私も含めて)ので、どのようなものか説明が簡単にでもあればありがたいです。(C)
- ・2021年の目指す姿(目標)実現のために掲げられた目標値がすでに「A」に達していますので、より高い次元を目指す新たな目標や目標値の設定が期待されます。(1)

【A票:教育研究目標4】

(タイトル)
専門的研究者の育成

(狙い内容)
キリスト教ならびに宗教に関する基礎知識を修得した上で、さらに専門的な研究に関心を持つ学生を育成する。

1. 教育研究目標を実現する上での2021年度のめざす姿(目標)

大学院との合併授業を充実させ、専門的な研究への関心を高めるとともに、卒業論文の執筆意欲を高めることを目標とする。

<変更時記入欄>

<変更理由記入欄:2021年度のめざす姿(目標)を変更した場合、その理由を記入>

2. 達成度評価

評価指標	独自の研究テーマと取り組む時間や高度な専門教育を受ける機会を増やし、大学院進学者数(他大学院を含む)を維持ならびに増加させる。	評価尺度	A: 8名以上 B: 5~7名 C: 3~4名 D: 2名	変更有無
	<変更時記入欄>		<変更時記入欄> A: B: C: D:	

3. 年度毎の目標値

		2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	変更有無
2015年度 (計画策定時)		検討中	C 3名以上	C 4名以上	B 5名以上	B 6名以上	B 7名以上	A 8名以上	有・無
2016年度 進捗状況 & 今後の 目標値	評価 尺度: A~D	<実績> C	<2016年度末時点の 見込み又は実績又は目標> A						
	見込・ 実績・ 目標 (値又は 状況)	<実績> 評価尺度Bに相当した。	見込み	<2016年度末時点の 見込み又は実績又は目標> 一次試験終了時段階において評価尺 度Aに相当した。					

【2016年度の進捗状況について】 ←

2017年度大学院第一次入学試験実施(9月)時点で作成。年度毎に段階的な増加を目標するが、各年度ともに8名以上(評価尺度A)の実績が望ましい。

<変更理由記入欄:評価指標、評価尺度、年度毎の目標値が変更有の場合>

2016年度の取組み状況の確認

2016年度の取組みは、当初の目標どおりに進んでいるか? → (はい)・(いいえ)

<上記で「いいえ」を選んだ場合>

①理由:

②今後必要な取組み:

<評価専門委員会・第三者評価結果> 2017年1月27日公示

- ・教育研究目標4の達成度の評価指標は適切であるが、評価尺度に重複(CとD)が見られるため、見直しが望まれます。(B)
- ・適切な目標設定であると思います。(C)
- ・研究者育成の取組が順調に進展しています。(E)